

歌う久雄地蔵

昭和の語り部より 歌詞（一部）

時は昭和の二十年 お盆の十四日

ご先祖様も眠りについた夜だった

空襲 火の雨 起こる火事

火の手を逃れて 多くの人たちが

焼夷弾 行く手に落ちて

飛び散る火花 怖い夜でした

今も 今も 浮かんできます